

夏の特別展

イベント名「深宇宙展－人類はどこへ向かうのかー」

キャッチコピー「見たくないか？ 驚異の宇宙が仙台にある」

○開催時期：令和8年7月18日(土)～8月30日(日)

○主 催：仙台市教育委員会

○主 管：仙台市科学館、仙台市天文台

○共 催：NHK仙台放送局、NHKエンタープライズ東北支社

○後 援：文部科学省、内閣府宇宙開発戦略推進事務局、宮城県教育委員会

○協 力：JAXA、国立天文台、東京大学、理化学研究所、SPACETIDE、
宇宙旅客輸送推進協議会、ミヤギテレビ、東北大学、SMMAほか

<概 要> 「深宇宙展－人類はどこへ向かうのかー」

- ①初の「宇宙」をテーマとした特別展を天文台との初連携で開催する。
- ②本展はNHKプロモーションが「宇宙」の企画展として日本科学未来館、豊田市博物館で巡回展示したもので、東北では初公開となる。
- ③サイドイベントや講演会を多数企画するとともに、地元の大学、放送局等とも連携した様々なイベントを多数企画し、ただの巡回展ではなく仙台ならではのオリジナリティーある特別展を目指す。

<入館料>

- ・一般：1,600円 高校生：600円 小学生・中学生：300円
ただし、特別展の入館料を納入したものは、常設展を無料とする。
- ※R7年度 一般：1,000円 高校生：600円 小学生・中学生：300円
- ※他館開催時の入館料 日本科学未来館 一般：2,200円
豊田市博物館 一般：1,900円

<協力講演者等（予定）>



吉田 和哉氏(東北大学 大学院工学研究科)

宇宙ロボット工学の第一人者であり、小惑星探査機「はやぶさ」および「はやぶさ2」の開発・運用に深く貢献した。2050年代に月面での持続的な有人活動を可能にするAIロボット（展示実演予定）の技術開発を進めている。

ベルナドア 美奈(大手民間衛星製作所・宇宙工学エンジニア)

宇宙分野の研究開発に携わり、現在は宇宙光通信技術などの研究を進めている。幼少期から宇宙に関心を持ち、将来の宇宙利用を支える技術開発に挑戦している。



その他、多くの方の講演会、実演イベントを企画中。

<内 容>

第1章 宇宙開発の最前線

日本の次世代ロケット「H3ロケット」に係るロケット技術や気象観測、GPSなど生活を支える様々な人工衛星を紹介するほか、宇宙ビジネスの成長により広がる民間宇宙事業を解説。



第2章 月に広がる人類の活動域

米国主導の有人月面探査「アルテミス計画」において日本の技術が期待されている有人与圧ローバー等の実物大模型や日本独自の月探査技術を紹介。(人類初、月面着陸河北新聞記事(S44.7.25)含む)



第3章 火星圏探査

NASAが進めている火星探査車「パーシビアランス」、「キュリオシティ」から撮影した火星表面の映像や日本が目指す世界初の火星衛星サンプルリターン計画(MMX)を紹介。



第4章 さらに深宇宙へ

太陽系の成り立ちを知る貴重な微粒子として地球外天体表面から小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」が持ち帰った小惑星粒子を観察。また、本展のエピローグ映像コンテンツ(深宇宙ツアー)を360°シアターで初上映。



【エントランス展示】

実業家の前澤友作氏が地球帰還時に搭乗したソユーズ宇宙船(パラシュート含む実機)および、実物大模型としては東北初公開となる有人与圧ローバーをエントランスホールに展示。迫力ある展示物で、特別展への興味・関心を喚起するとともに、来場者の期待感を高める。



【天文台連携】

連携投影「MMX火星衛星探査計画」をプラネタリウム上映。また、展示室内にて天文観測分野で重要な役割を果たす観測装置の模型を展示する。

